

令和4年度 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 離島・僻地病院実習

実習生：三好 太郎

実習先：長崎県上五島病院

実習期間：令和 4年 12月 1日 ～ 令和 4年 12月 28日

【実習内容の概要】：

令和4年12月の1か月間、長崎県上五島病院にて離島・僻地医療実習をさせていただきましたので報告申し上げます。上五島病院は上五島町の中通島の中央に位置する上五島町で唯一の有床診療所です。一次・二次救急医療を担うほか、緩和医療、健診、在宅・訪問医療など多岐にわたる医療を担っています。また、新型コロナウイルス遷延に伴い発熱外来や入院加療も行なっていました。さらにはがん診療離島中核病院に指定されており、上五島町のがん診療を一手に担う病院でもあります。今回、私は内科のグループのひとつに加えていただき、診療に携わることができました。グループの先生方の主な担当科は循環器内科、皮膚科、感染症内科、総合内科であるものの内科全般、緊急時は外科的な処置までとても幅広く診療を行っていらっしゃいました。そんな先生方と共に1か月間診療をさせていただき、非常に有意義な経験となりました。

私はこれまで5年間口腔外科医として、がん診療を含め全身管理に難渋するような症例や入院患者への対応で自身の反省点が多くあり、そういった部分の勉強を個人的な目標として今回の研修に臨みました。具体的な内容としては、毎朝・夕のグループ内の入院患者についてのカンファレンスおよび病棟回診、午前中は外来診察・往診・内視鏡検査、午後は透視室でのPTAやカテーテル室でのCAGやPCI、週に1度の内科カンファレンスを基本的な流れとして、それ以外にも発熱外来や透析、化学療法など落ち着くことはありませんでした。そんな多忙な中、それぞれの症例や処置の内容だけでなく、患者背景や地域的な背景まで丁寧に説明していただきました。特に印象に残っているのは研修の3日目に緊急入院となった患者さんの担当にさせていただいたことです。下痢という一般的な症状での入院でしたが、本当に多くの考えられる原因があり、またそれに対する検査の種類も多くありこれまで聞いたことのないようなものもありました。内科全体のカンファレンスでプレゼンさせていただき、多くの指摘や提案を受けとても勉強になりました。その患者さんが私の研修最終日に退院できたことは良い症例としての思い出になりました。

歯科的な観点からは上五島病院には歯科がなく、口腔内処置が必要な場合は往診を依頼するが頻度は多くないようでした。ただ、看護師の方々による口腔ケアはとても熱心に行われており、入院患者については口腔衛生状態が良くない方はいらっしゃいませんでした。私自身が感じたことは、義歯は所持しているが使用せず食事をしていたり動揺している歯牙がそのままになっていたり歯科医師の必要性です。歯科を新設することは困難であるとは思いますが、往診での連携をより強固にすることなどはできるのではないかと考えます。また、夜間や休日に口腔内の緊急処置が必要な場合も診察可能な場所がないという問題もあり、離島・僻地の問題のひとつに感じました。先生方からも口内炎と悪性腫瘍の鑑別や薬剤関連顎骨壊死をはじめ、外傷歯や口腔内出血など多くの質問をいただきました。こういった私たち歯科医師との交流を契機に離島・僻地においても医科歯科連携が重要だと感じました。

今回の研修を通して強く印象に残ったことは、患者数・症例内容に対し、医師・看護師含めた医療従事者数や設備に限られた環境の中でそれぞれが最高の医療を提供しようと懸命な姿勢です。物理的距離、交通手段、病識、老々介護といった多くの問題の存在があり、医療の限界があることを医療従事者・患者さん家族双方とも理解していること、その状況に対しての医療者側のもどかしさなども印象的でした。離島・僻地医療への興味は以前からありましたが、現実を自身で体験することで今まで漠然としていた医療の姿が明確になったと共にその重要性について改めて知ることができました。歯科医師としてできることはたくさんあるため、今後関わって行くことができればと思います。その為には、今回ご指導いただいた先生方のように自身の専門範囲のみでなくより広範囲の知識・技術が必要であり、研鑽を積んでいかなければならないと思っております。

このような機会を与えていただき、ありがとうございました。



様々な症例を経験させていただきました

先生の軽トラで往診へ

(左) 日島の診療所にて
(右) 若松診療所



大曽教会にてクリスマスのミサにも参加することができました。



お店の数は少ないものの素敵なお店も病院近くにありました。

実習報告会の様子

